



笑顔でご来店をお待ちしています (右側：パンシェルジュ)

パンシェルジュとは... ホームメイド協会監修のもと、2009年に出来た検定で「パン」を「コンシェルジュ」する... という造語です。パンシェルジュは、『奥深いパンの世界を迷うことなく案内出来る幅広い知識を持つ人』という意味です。検定の3級では、入門編としてパンの製法・道具・材料の知識や歴史や世界のパン・衛生に関する知識、マナーなど、幅広い分野から基本的な内容を学びます。2級は、パンマーケット・トレンドから小麦粉に関する理解や本格的なパン作りの工程と天然酵母のおこし方やパンとのコンビネーションなど、それぞれをさらに深く追求し「パンシェルジュ」にふさわしい知識と

パンシェルジュが大活躍！ パン工房Puku Puku 店長 高木 知子 (たかぎ ともこ) いろいろなパン作りのコツなどの「実践編」を学びます。Puku Pukuファンのお客様に美味しい召し上がり方やワインとのマリアージュなどをご案内できれば幸いです。Puku Puku完全オリジナル商品の「黒糖しょうがブレッド」と「くるみクリームチーズ」のご紹介を致します。ミネラルたっぷりの沖縄産黒糖を使った生地は今話題の健康食材の「生姜」を甘く煮た角切りがゴロゴロ入っています。体の中からポツカポツカ！木曜・土曜の限定販売です。また、「クルミクリームチーズ」は食物繊維・ビタミンB1・ビタミンE・ピオチン(ビタミンH) 鉄分・ミネラルなどが豊富に含まれているクルミがたっぷりのパン



生地に濃厚なクリームチーズが入っています。トッピングのブラックいちじくがアクセント！一度食べたらやみつきに！黒糖しょうがブレッド、一斤420円、半斤210円、くるみクリームチーズ230円(いずれも税込み)ご予約承っております。

いたる通信 48 桜桃号

目次 contents 01 Puku Puku 02 あけぼの作業所 クローバー すまいる高井戸 (いたる相談室) 03 目黒本町福祉工房 GH事業部 サポートウイズ 04 阿佐谷福祉工房 さんまるしえ

いたる賛助会入会のご案内 「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。 「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。 年会費 1口5千円(何口でも可) 郵便振り込み 001107128992 (同) 33927346 事務局 山本まで

阿佐谷福祉工房 製パン作業スタート



おいしい食事パンを提供します

昨年度試作を重ねついにレシピを完成、製パン事業をスタートしました。 まずは、定番、自分たちの給食に使用しています。そして、あけぼの作業所でも購入していただいています。 今年度は、12ヶ所になるグループホームにも提供していきます。とりあえず、毎日ご利用者が同じ仕事をこなせるだけの仕事を取得していきます。 また、製パン作業の余力の時間を利用して、ラスク・クッキー等のスイーツ系の商品も製造販売いたします。 「a.f.kスイーツ」と



衛生面に気を付けて丁寧な作業を行っています

施設長 佐藤 章 (さとう あきら)

区役所販売を始め、阿佐谷駅南口商店街パールセンター内ふるさと館はじめ、多くの外販を行ってききましたが、今年度は、リヤカーも購入してご協力いただける方の軒先を借りた移動販売も始めます。作業所での店頭販売も検討しております。 今後、阿佐谷福祉工房は、製パンを三本柱の一つになるように拡充していきます。 常においしいパンを求めてがんばっていきます。ご声援よろしく願います。

SunMarche (さんまるしえ) 店長 鈴木 健 (すずき たけし)

お 昼時は店内大混雑です。 お店の開店は11時ですが10時30分にはフードコミュニティ目黒さんからお弁当が2種類(日替弁当と定番の鮭弁当)30個が届きます。 事前に翌週の日替弁当のメニューを入手し、メニュー内容を記したチラシを目黒本町福祉工房の利用者の方々にポスティングをして頂いています。



ランチ時の豊富な品揃え

このチラシをご覧になったお客様からご予約のお電話が入り、取り置きのお電話をします。そうこうする内に11時の開店となり、お客様が来店になります。 又、11時20分頃に、しいの実社さんからパンが届く頃には店内でお召上がりのお客様が出始めます。 お弁当やパンを食べられるイトインスペースはすぐに一杯になり、お弁当、パンに併せてスープ、お味噌汁を追加でご購入頂き、食後には喫茶になります。 最近では常連のお客様が増え、お顔を見ただけでスタッフは

お味噌汁、食後のコーヒーと準備を始める等、忙しい中もお客様一人一人の好みを把握しているスタッフを頼もしく感じられる時間帯がこの頃です。 お客様も様々で、お近くの会社員の方が食事をしながら打ち合わせをされたり、ご夫婦でお弁当を召し上がったたり、ベビーカーを押してパンやお弁当をご購入される若いお母様の集団だったり、お弁当のほりの旗をご覧になったタクシーの運転手の方だったり、12時頃は混雑もピークを迎えます。 メニューの内容次第では12



昼食時の様子

いたる広報委員 発行責任者=谷山 哲浩 社会福祉法人いたるセンター 〒167-0032 東京都杉並区天沼1-15-18 TEL: 03-3392-7346 FAX: 03-3391-8039 Eメール: info@itarucenter.com HP: http://www.itarucenter.com/ 発行日/平成25年4月1日 ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。 いたる広報委員まで。 いたる ITARU CENTER

あけぼの作業所

生命と笑顔を繋ぐ

（やまだ ひろこ）
山田 弘子

クッキンググループリーダー

2 月某日、あけぼの作業所にキッチンカーがやってきました。外見は、「これがキッチンカー？」と思ってしまう程の大きな白いトラック。中には、冷蔵庫、シンク、電気コンロなどがあり、真正正銘のキッチンカーです。

このキッチンカーは「繋ぐ」と言う目的があり、2つの用途で使用します。

1つ目は、「あけぼのタイカレーの移動販売」。クッキンググループでは、安全・安



日本財団からの助成を受けています

と繋がって行くことを期待します。2つ目は、震災時の炊き出しにより、命を「繋ぐ」こと。温かい食事は、生きる喜び、生きるパワーを与えることができます。このキッチンカーが生きる源を運び、



おいしいタイカレーをご賞味ください！

生命を「繋ぐ」、笑顔を「繋ぐ」、そして・・・たくさんの方を未来へ「繋ぐ」ことを目指します。とは言え・・・あれだけ大きいキッチンカーは販売場所を見つけることが大きな課題です。更に、発電機による騒音と振動の軽減、設備の改善など実施に向けて越えなければいけないハードルは幾つもあります。

ご利用される方全員が気分よく利用でき、安全、安心なタイカレーを届けるために、そして、たくさんの方に喜び、パワー、笑顔を届けるために、全ての課題を解決し、自信を持ってスタートしたいと考えています。

クローバー事業部

事業部災害時の動き

（かげやま ひとみ）
所長 影山 仁美

ご利用される方やそのご家族が、少しでも安心してお使いいただけるよう、施設利用中に大きな地震があった場合の事業所の基本的な動きをお伝えします。クローバーが入っている新屋舎は、平成24年4月に完成し、震度7まで耐えられる構造になっています。従いまして、ご利用中に大きな揺れが発生しても基本はクローバー内で待機してもらい、ご家族のお迎えをお待ちいたします。マルコご利用の方も揺れが収まり次第、クローバーに移動していただきます。震災発生時の迎えは、クローバーへお越しください。但し、職員の判断で屋舎に危険を感じた場合は、第一避難所の天沼小学校へ避難いたします。

その他安否について、「災害伝言ダイヤル」171を使用してお知らせをいたします。

杉並区障害者地域相談支援センター

愛称は「すまいる高井戸」 春山 陽子

（はるやま ようこ）

平成20年7月より、杉並区の委託相談支援事業所として、活動しております。たる相談室（阿佐谷南）は、4月12日より活動を開始する杉並区障害者地域相談支援センター高井戸（すまいる高井戸）の委託を受けたことに伴い、市町村の相談支援事業を障害者福祉会館に移すことになりました。今まで2名の職員と非常勤のスタッフで年間4000件ほどの相談支援を行ってききましたが、今後は3名の常勤職員と非常勤職員で主に福祉事務所高井戸事務所のエリアの方の支援や自立支援事業等を行う予定です。いたる相談室は、サービスイタル計画作成の特定相談支援事業所として、法人の中に残ります。二つの事業のご利用を今後ともよろしくお願いたします。

目黒本町福祉工房

団長日記 VOI. 4

♪春を探しに行こう♪

桜の咲く頃にいつも思うこと。四季折々の豊かさや変化を気の合う仲間と共有出来たらなんて幸せなんだろう。細い糸をたぐりよせ、共感できる物を引き当てるような繊細さをまったく持ち合わせていない自分にとって、季節は分かりやすい宝物なのかもしれない。「街に出て、季節を感じながら、おいしい店を見つけて、新しい出会いを楽しんでみない」そんな風に誘ってみたくなる。春はそんな気持ちが一番強くなる。出会いと別れ、希望と寂寥、明と暗。様々な出来事がクロスしながら時間が流れるからかもしれない。

この4月が来たら「いたるセンター」の運営となって一年が経過することになる。過ごした時間の長さと同じくらい充足感を得ることは難しいことと知りつつ、「新しい出会いが多くの人に満足していただけるように」そのこと

を願う日々の運営に努めてきた。つい先日、その結果をアンケート評価の形で知ることができた。貴重なご意見の数々。優しい言葉に癒され、厳しいご意見にへこたれながら、冷静にこの一年の取組みを振り返ることができた。この結果や平成24年度の振り返り等を踏まえて次年度の計画を作成したところである。

前工房長

（むらせ ふみつく）
村瀬 史貞

平成24年度は引継ぎ事項を丁寧に実践することを念頭に置き運営をしてきた。言葉を変えて言うなら「継続」がテーマだった。「所変われば何某」の喩えのとおり、人が変われば新しい価値観が生まれて当たり前で、あまりにも窮屈な運営を強いてきたと反省をしている。

その反省から、平成25年度のテーマを「創造」に置き、春を探していくような気持ちで、みんなが共感できる福祉工房の宝物を創りだしてほしいと思っている。

福祉工房の四季をより彩り豊かなものにするために。

グループホーム事業部

今後の展望について

ホーム長

（しらすたき のりお）
白滝 則男

グループホーム・ケアホーム事業部（以下GH・CH）では、宮前の第11ホームの契約も無事行なわれ、工事も着工しております。5月1日男性入居者5名での開設予定です。第12ホームとしてはGH・CH事業本部のある荻窪北マンションの空室を利用してホームを作る予定でいます。これを機にしてGH・CHの入居者を再編成して、ご利用者様の過ごしやすさ

ム作りを考えています。配食につきましては、現在あけぼの作業所の厨房を借りて定期的に配食の提供を行ってききました。ご利用者様、ご家族の方の配食の感想は概ね好評で、是非継続してほしいという意見が多くありました。まだまだ課題はありますが、今後週3回実施する方向で進めていきたいと考えています。また、サポートウイズとの

サポートウイズ

居宅介護支援について

所長

（やまき としこ）
八巻 利子

昨年10月オープン予定の居宅介護支援事業所の立ち上げにあたり、不備が多々あり遅れてしまいました。

今年度早々には指定事業所として開設できるように奮闘中です。

事業所はサポートウイズ内に置き、相談業務は102号室（隣室）に置くことになりました。

障害を持たれている方も健常者同様のサービスが受けられるようにと願い、介護保険居宅介護支援事業所を立ち上げました。障害に精通しているいたるセンターならではの事業展開になるよう職員一同頑張っています。



（仮称）いたる第11ホーム外観



サポートウイズ外観